

派 遣 報 告 書（報告者；穴見健吾）

大会名	第 78 回 南九州対抗バスケットボール選手権大会		
開催地	宮崎市総合体育館、宮崎県体育館		
日 時	令和 6 年 4 月 1 9 日（金）～ 2 1 月（日）		
担当ゲーム 1	大分上野丘 v s 熊本工業		
相手審判	CC：大津廉 U1：長田大輔 U2：穴見健吾		
Pre-Game Conference			
☐ チーム分析 ☐ ベーシックなメカニクスを意識する ☐ 処置ミス 0・・・交代の可否、タイマーの管理			
Post-Game Conference			
☐ クルーワークを意識し、ベーシックなメカニクスを実践できた。 ☐ 4 Q 残り数分の時点でメインタイマーがリセットされた時の対処の仕方。タイマーの管理、ベンチの管理に迫られ、処置ミスにつながってしまった。			
担当ゲーム 2	熊本工業 v s 宮崎工業		
相手審判	CC：穴見健吾 U1：米丸尚志 U2：中村純平		
Pre-Game Conference			
☐ チーム情報の持ち寄り ☐ ベーシックなメカニクス ☐ プライマリの確認			
Post-Game Conference			
☐ 一試合を通してプライマリを意識して笛を入れていくことができた。 ☐ 激しいボディコンタクトが少なく、だからこそイリーガルなものを見逃がさないようクルーでコミュニケーションを取りながらレフェリングすることができた。			
担当ゲーム 3	鹿児島 v s 大津		
相手審判	CC：長田大輔 U1：井上華澄 U2：穴見健吾		
Pre-Game Conference			
☐ チーム情報の持ち寄り ☐ メカニクス・・・エリアとアングルの確認 ☐ エッジの 3 P・・・リードの体の向きにトレイルがアジャスト			
Post-Game Conference			
☐ お互い走るチームでトランジションが多く、ローテーションがくずれる時があった。 ☐ 試合終了間際にビッグインパクトがありノーマルファウルで処置したが、アンスポに該当したかどうか。集中力を保ち、試合の雰囲気が変わる瞬間を見逃さないことが大切だと改めて感じた。			

今大会に参加しての感想など

南九州四県対抗大会では3試合の割当をいただき、クルーと連携しながらレフェリングをすることができました。男子2試合、女子1試合の割当て、ラフではなくタフな試合にするために接触による影響を見極めること、起こったことをそのまま笛で鳴らすのではなく「分析」することの大切さ、難しさを痛感しました。今回の派遣で得た経験を県内にも還元できるよう一層努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、今回の派遣に際しまして、大分県バスケットボール協会の関係者の皆様をはじめ、職場、家族の理解と応援をいただきました。心よりお礼申し上げます。